

平成 2 8 年

第 7 回仙北市議会定例会
教 育 行 政 報 告

仙北市教育委員会

平成 2 8 年 9 月 2 日

平成28年第7回仙北市議会定例会の開会にあたり、主な事項について、ご報告させていただきます。

【教育総務課】

◇全県中学校総合体育大会等の主な結果について

第65回全県中学校総合体育大会が、7月16日から18日まで開催されました。団体種目では、柔道競技で、神代中学校男子が第3位、卓球競技でも、神代中学校男子が第3位となり、ともに東北大会への出場権を獲得しました。

個人種目では、角館中学校の松本唯(ゆい)さんが、柔道女子個人57kg級で優勝し、全国大会と東北大会への出場権を獲得する大活躍を見せました。

また、柔道男子個人90kg級で、神代中学校の藤村飛翔(あすか)さんが準優勝、角館中学校の黒沢翔(しょう)さんが第3位と大健闘しました。同じく66kg級では、神代中学校の村上息吹(いぶき)さんが第3位に入賞し、ともに東北大会への出場権を得ています。

このほかにも、女子卓球個人で、角館中学校の加藤こゆきさんがベスト8に進出(第5位)、陸上競技共通男子四種競技で、生保内中学校の樋口拓馬(たくま)さんが第4位となり、東北大会の出場権を得る活躍を見せました。

東北大会でも、神代中学校の活躍が光りました。8月6日と7日に、岩手県奥州市総合体育館で行われた卓球競技では、神代中学校が男子団体予選ブロックで、岩手県の一関市立萩荘(はぎしょう)中学校に3-2、仙台市立南光台東(なんこうだいひがし)中学校に3-0、青森市立佃(つくだ)中学校に3-1で勝利し、決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメント1回戦では、青森市立油川(あぶらかわ)中学校に、2-3と惜しくも敗れましたが、見事にベスト8に進出する活躍をみせてくれました。

同じく、福島県郡山市総合体育館で行われた柔道競技で、神代中学校男子柔道部は、団体予選Aグループで、宮城県白石市立白石(し

ろいし)中学校に4-1、岩手県山田町立山田(やまだ)中学校にも4-1で勝利し、準々決勝に進みました。準々決勝では、福島県郡山市立郡山(こおりやま)第6中学校に0-5で敗れましたが、卓球部とともに東北大会ベスト8進出という大活躍をいたしました。

また、柔道個人戦では、男子90kg級で神代中学校の藤村飛翔さん、女子57kg級で角館中学校の松本唯さんが、ともにベスト8に進出する活躍をみせました。

東北大会で活躍した皆さんの健闘を讃えるとともに、これに続く新人戦等での活躍に期待したいと思います。

◇中学校通信陸上競技大会での活躍について

7月23日と24日に、大館市長根山陸上競技場で開催された、第62回全日本中学校通信陸上競技大会秋田県大会で、生保内中学校3年の樋口拓馬(たくま)さんが、男子共通四種競技で1,848点の高得点で準優勝に輝きました。

四種競技は、中学生の混成種目で、男子は110mハードル、砲丸投げ、走り高跳び、400m走の記録をポイントに換算して競うものです。樋口さんは、7月16日から17日に行われた全県中学校総体で4位に入賞し、東北大会の出場権を得たことが大きな自信となって、今回の成績に結びついたようです。

◇仙北市・富士河口湖町子ども交流事業について

クニマスの再発見を契機に、平成24年度から始まった交流事業は、5回目を迎えました。今年は7月27日から29日までの3日間、市内各中学校の代表6人が山梨県富士河口湖町を訪問しました。

初日は、今年4月に開館したクニマス展示館を訪れ、生きたクニマスを見学したほか、田沢湖での歴史、西湖で発見された経緯、クニマスの保全と人工増殖の取り組みなどについて学習しました。

また、富士河口湖町役場を訪れ、渡邊喜久男(きくお)町長を表敬訪問しました。渡邊町長からは、「仙北市の『クニマス未来館』

のオープンには、クニマスを展示できるように協力をしていきたい、また、仙北市と共同でクニマスに関するグッズを開発していきたい。」というお話をうかがいました。

訪問2日目と3日目は、カヌー体験や富士山五合目見学を行ったほか、リニアモーターカーの試験走行を見学し、最先端の交通技術のすばらしさを体験してきました。

参加した生徒からは、「クニマスの存在は知っていたが、今回、直接見ることができてよかった。」などの感想が聞かれました。また、「一度変わってしまった環境を元に戻すのは大変だと思うが、いつの日かクニマスを里帰りさせたい。」という強い決意を胸にしたようでした。

参加した生徒は、在籍校でこの貴重な体験を発表し、交流を通して考えたことを自校の生徒に伝えながら、クニマスや環境保全、仙北市の将来について考えていきます。これらの活動を通して、市内生徒の環境学習の深化と、地域貢献意欲の育成につなげていきたいと考えております。

なお、富士河口湖町からは、田沢湖マラソンに4人が参加する予定で、今後もさらに交流を深めていきたいと思えます。

◇子どもサミットについて

8月2日に、市内12校の児童会・生徒会代表者による第9回子どもサミット～S e m b o k u C i t y ジュニア未来会議～を開催いたしました。

サミットでは、いじめの撲滅などを目指して、昨年度まとめた「仙北っ子の約束」を浸透させるための各校の取り組みや状況等の情報交換、仙北市の将来についての意見交換、2017FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会でのおもてなし等について、活発な意見交換がなされました。

今後も、ふるさと仙北市や自分たちの学校生活をよりよいものにしていくために、子どもたち自身による自主的、主体的な取り組み

を支援して参ります。

◇第27回全日本ローラースキー選手権大会について

全日本スキー連盟主催の第27回全日本ローラースキー選手権大会が、8月11日と12日に、鹿角市の花輪スキー場で開催されました。

秋田、青森、岩手から30人の選手が参加して行われたこの大会で、生保内小学校6年生で、田沢湖ジュニアXC(クロスカントリー)に所属している鈴木勇太郎(ゆうたろう)さんが、これまでの練習の成果を発揮し、クラシカル競技小学男子3kmとフリー競技小学男子3kmの2種目で、見事3位に入賞しました。

今後のウィンターシーズンでの活躍に期待したいと思います。

◇中学校田沢湖駅伝大会での活躍について

8月30日、台風10号の影響が心配される中、第46回大曲仙北中学校田沢湖一周駅伝競走大会、並びに、第21回大曲仙北中学校田沢湖女子駅伝大会が開催されました。

この大会は、これまでに多くの名ランナーを生み出した伝統ある大会で、リオオリンピックのマラソン競技で活躍した佐々木悟(さとる)選手も、南外中学校時代に、この大会で優勝のテープを切り、一流ランナーへの一步を踏み出した大会でもあります。

今年は、大曲仙北の全ての中学校17校が参加し、男子26チーム、女子25チームで競技が行われました。

この中で角館中学校女子Aチームは、並み居る強豪校を相手に力走を見せ、5区間12.6kmを45分34秒で走りきり、見事に優勝の栄冠を手に入れました。角館中女子Aチームは、1区から最終5区まで先頭を走り、2位的美郷中に1分以上の差をつけての見事な優勝でした。

男子は、7区間、田沢湖一周20.6kmで行われましたが、角館中学校男子Aチームが、1時間7分36秒の好記録で準優勝を果たしました。3位の中仙中とは2分以上の差が開き、レースは、優勝

した大曲中 A チームとの一騎打ちとなりました。ゴール地点で 16 秒差の準優勝でしたが、最後まで全力を出し尽くす力走に会場からは大きな拍手が送られました。

9 月 17 日から 18 日に秋田市雄和で行われる秋田県中学校総合体育大会駅伝競走大会での活躍を期待したいと思います。

【生涯学習課】

◇仙北市成人式について

8 月 15 日、仙北市民会館において、仙北市成人式を開催しました。今年度の対象者は、平成 7 年 4 月 2 日から平成 8 年 4 月 1 日生まれの 284 人で、うち 228 人（80.3%）が参加し、厳かな中にも、晴れやかな表情で式典に臨む新成人の姿が印象的でした。

新成人 3 人による「誓いのことば」では、自然豊かな仙北市でここまで育ててくれた両親や家族、地域の方々への感謝の気持ちでいっぱいであること。すでに就職している人、更に勉学に励んでいる人と置かれている状況が違っても、成人としての自覚をしっかりと持って社会に貢献できる人材になりたいこと。また、これまでは周りの方々に守られ支えられてきたが、これからは自分が誰かを支える側になれるよう精進していきたい。などの決意の言葉が述べられました。

また、式典終了後には、新成人によるアトラクションが行われ、「歌で成人を祝おう!!」と題して、『未来へ』、『秋田県民歌』の合唱が披露されました。司会者の誘導で市長、恩師、新成人の有志がステージに上がり、観客席の新成人・来賓の方々とともに、朗々と歌い上げ、会場は一体感に包まれました。

今年度も地元在住有志の協力で、4 回の準備会を開催し、式典での役割やアトラクションについて決定していただきました。人口減少の著しい本市ではありますが、ひとりでも多くの新成人が地元で定住し、地域活性化の大きな原動力になってくれることを期待しております。

【田沢湖公民館】

◇生保内節盆踊り大会について

8月20日、田沢湖庁舎駐車場を会場に、第46回生保内節盆踊り大会を開催しました。

市内外から昨年を上回る400人余りの参加者を迎え、過ぎゆく夏の夜を民謡「生保内節」に合わせ、二つの大きな輪となり、心ゆくまで盆踊りを楽しみました。

盆踊りの合間には、生保内田植え踊り保存会、石神稲穂太鼓保存会による郷土芸能のほか、生保内小学校児童による民謡や、だしのこ園職員有志によるサンバ生保内節など、多彩なアトラクションが披露され、詰めかけた多くの観衆から盛大な拍手が送られていました。

終盤の表彰式では、地元の企業協賛による特別賞のほか、仮装賞や個人賞など、沢山の賞が贈呈され会場は大いに盛り上がりました。

【市民会館】

◇ロビーコンサートについて

8月19日、市民会館前の駐車場で「夏広場黄昏ビート・オン」と題してロビーコンサートを開催しました。

出演は、市内ビッグバンドのスイングチェリーズと（一財）日本郷土民謡協会生保内支部の皆さんで、初めて屋外での開催を試みました。

また、市内業者の方々から出店のご協力をいただき、夏祭りらしさがあふれるなか、100人ほどのお客様が、夏の一夜を楽しみました。

ロビーコンサートも次第に定着してきており、今後も楽しい企画を計画して、市民の皆さんへ音楽を通じた文化の香りをお届けして参ります。

◇生保内節全国大会について

7月末で締め切られた、第31回生保内節全国大会の参加申し込

みは、一般135人、年少者34人で、合計169人の申し込みをいただきました。

本年度から9月の第4日曜日を決勝日として、その前日を予選とすることで、田沢湖マラソンとの間に猶予期間を設け、より参加しやすい大会日程としました。

参加者の高齢化による減少もありますが、新規申し込みもあり、トータルで例年並みの申し込み状況となっております。

大会の成功に向け、着実に準備を進めて参ります。

【田沢湖図書館】

◇秋田県立博物館出張展示「水底の宝石展」について

7月16日から8月8日まで、秋田県立博物館の出張展示「水底の宝石展」を開催し、延べ532人の入場者がありました。

日ごろ、目にすることのない珍しく美しい貝の展示は、子どもたちはもちろん、大人も十分楽しめる内容でした。

7月30日には、「わくわくたんけん室」として、子どもたちが貝の標本作りに挑戦し、学芸員の指導のもと、展示標本や図鑑などを調べながら、思い思いの標本を完成させ、その出来映えに満足そうな笑顔を浮かべていました。

また、主任学芸員によるギャラリートークも行われ、展示された貝についての解説をしていただきました。

参加者のほとんどが、初めての経験であり、特に子どもたちは、目を輝かせながら熱心に説明を聞き、貝の名前の由来や生息地の海など、たくさんの質問をしていました。

この日だけで、100人近い親子連れなどでにぎわい、大好評のうちに終了いたしました。

◇朗読会「8月の小さな祈り 語り継ぐものがたり」について

8月26日の午後6時から、戦争をテーマに、平和と命の尊さを語り継ぐ朗読会を開催いたしました。

おはなしの会「アトリエ」の、加藤真弓さんと田村美幸さんの朗読による、絵本「すみれ島」や詩集「慟哭」などの4作品と、安藤満里さんの奏でるピアノの旋律は、過去の歴史の悲しみや悲惨さを伝えてくれました。参加した30人ほどの中には、涙ながらに聞き入る方や、すすり泣く姿も見られ、来場者の心に、平和への思いが強く刻み込まれたことと思います。

【学習資料館・イベント交流館】

◇各企画展について

新潮社記念文学館では、4月16日から7月31日まで、新潮社創立120周年記念企画展「新潮文庫のひみつ展」を開催し、2,032人の入館者があり、好評のうちに終了しました。

また、8月6日から11月27日までは、郷土の文化人として活躍し、農村モデル町立角館図書館の初代館長も務めた、富木友治（とみきともじ）の生誕100周年を記念する企画展「富木友治 椽ノ木の話（とちのきのはなし）展」を開催しております。

富木友治は、日本画家平福百穂の甥で、昭和43年に亡くなるまで、郷土の文化人として活躍した人物です。旧制角館中学校を卒業後、日本大学芸術科に学び、帰郷後も中央の文化人と交流を持ちつづけ、郷土の文化振興のために尽力しました。

「椽ノ木（とちのき）の話」は、20代の友治が残した代表的な作品で、東北地方の民間説話を基にした3話から成り立つ物語集です。昭和17年に52回にわたって秋田魁新報へ連載され、勝平得之（かつひらとくし）のあたたかな作風の版画が挿絵に使われるなど、農村の生活を視覚の面からも豊かに伝えています。

企画展では、物語に触れていただく機会となるよう、勝平得之による版画約50点とともに、『椽ノ木の話』を紹介しておりますので、是非多くの皆様にご覧いただきたいと思っております。

また、利用促進事業の一環として、8月4日の夕方に「学習資料館・真夏の怪談」と題した朗読会を開催しました。

新潮社記念文学館ボランティア「やさいの花」の皆さんによる、3話の怖い話に40人の参加者は、固唾を吞んで聞き入っております。

今後も多くの市民に利用してもらうため、さまざまな取り組みを継続して参りたいと思います。

【スポーツ振興課】

◇田沢湖マラソンについて

9月18日に、アテネと北京オリンピックの女子マラソンに連続出場し、世界陸上でも活躍された土佐礼子さんをゲストランナーにお迎えして、第31回田沢湖マラソンを開催いたします。

現在のエントリー状況は、前回は700人ほど下回っていますが、前日エントリーを含め、例年並みの5,600人程度を見込んでおります。

懸案となっている臨時駐車場については、参加選手の大会会場への導線を考慮し、新たに田沢湖黒沢地区工業団地を活用しながら、車両渋滞の解消を図って参ります。

また、今大会からJTBスポーツステーションとエントリー契約を締結し、これまでの走るだけの参加型から、観光を含めた滞在型を取り入れ、国内参加のみならずインバウンド対応として、台湾からの受入れを積極的に行っております。引き続き参加者の満足度が高まる大会となるよう、鋭意努めて参ります。

◇2017FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会の準備状況について

3回目の開催となるモーグルワールドカップが、6月に開催されたFIS（国際スキー連盟）の総会において、平成29年2月18日と19日の両日開催に決定しました。

また、9月15日から2日間、FISによるインスペクション（現地視察）が、たざわ湖スキー場で行われます。コースレイアウトや

大会運営についての確認を行うこととしております。

昨年度は、ジャッジハウスが新設され、モーグル会場としてのグレードも高まっていることから、2018年以降の開催につきましても、関係機関と連携を図りながら、地域の活性化へ結びつくよう、開催誘致に向け取り組んで参ります。

更には、2018年韓国・平昌（ピョンチャン）と、2022年中国・北京（ペキン）の冬季オリンピックに向け、国内外のキャンプ候補地として、重要な位置付けとなることから、受入れ態勢の更なる整備・強化を図って参ります。

◇各種スポーツ大会について

9月25日には、第26回100キロチャレンジマラソン大会が開催されます。大会運営や今後の大会継続のあり方等検討の余地はあるものの、秋田県や関係団体とともに、しっかりとサポートを行って参ります。

10月2日に、大館市で開催される秋田25市町村対抗駅伝ふるさとあきたラン！仙北市選抜チームが、7月30日の小・中学校選考会を経て結成されました。小学生、中学生、高校生、一般、壮年からなる9区間に、各年代の代表選手総勢18人が参加します。今後、数回のチーム練習を経て、大会に臨む予定となっております。

【平福記念美術館】

◇「はんぽの会日本画展」について

日本美術院同人であり、同院評議員の伊藤髟耳（ほうじ）先生を中心とした日本画家による「はんぽの会日本画展」を、6月8日から7月24日まで開催いたしました。

今回の展示会では、オープニングでの伊藤髟耳先生による作品解説や、期間中の中高生等を対象としたスケッチ会などが行われ、伊藤先生指導のもと、秋田においての美術作家の底上げを図ろうとする意気込みが感じられた展示会になりました。

開催期間中は、市民の方々を始め多くの来館者があり、1,415人の入館者がありました。

◇「草薨興宗展」について

大仙市（旧中仙町豊川）出身の日本画家で、平福百穂の画塾「白田舎」で学んだこともある草薨興宗（くさなぎこうそう）の日本画展を、8月1日から9月22日まで開催しています。

豊かな画才に恵まれ、将来を嘱望されながら、32歳という若さで早世された興宗は、今年が没後80年に当たる年であり、今回、興宗作品をご所蔵されている皆さん並びにご所蔵機関のご協力をいただき、興宗の功績を顧みる機会を得ることができました。

興宗の作品は、優しさと繊細さにあふれ、その人柄が深く滲み出ております。是非、市民の皆様はじめ、多くの方々にご高覧いただきたいと思います。

以上、教育行政に関する報告を申し上げましたが、本定例会に提案しております教育関係議案につきまして、慎重審議のうえ、ご可決賜りますようお願い申し上げ、教育行政報告といたします。